

令和6年度

市立横手病院 総務課の方針書

組織名	市立横手病院 総務課
所属長名	総務課長 黒澤 雄悦

1. 組織の使命(ありたい姿)

<ul style="list-style-type: none">患者さん中心に、安心・安全な医療の提供につとめます。地域の医療・保健に貢献します。健全な病院経営につとめます。

2. 組織の抱える課題(現状)

<ul style="list-style-type: none">令和6年度診療報酬改定への対応職員の働き方改革に伴う人員確保と職場環境の改善健全な病院経営(コスト抑制と生産性の向上)

3. 今年度の『スローガン』

地域に愛され、信頼される病院を目指します。

4. 今年度の方針

<ul style="list-style-type: none">診療体制の整備、質の高い医療提供、患者サービスの充実人材の確保と働きやすい職場環境づくり経営健全化に向けた取組の推進
--

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	診療体制の整備、質の高い医療提供、患者サービスの充実
	取組内容	<ul style="list-style-type: none">初期臨床研修医採用定員4名のフルマッチに向けた広報・PR活動の実施。各種指導料などのベンチマークと平均値取得に向けた取り組みの実施。医療機器の早期発注
(2)	実現したい成果	人材の確保と働きやすい職場環境づくり
	取組内容	<ul style="list-style-type: none">看護師をはじめとしたスタッフの人手不足の解消を図るため、病院ホームページやリーフレットを活用した職員採用情報の発信を行うとともに、就職相談会や企業ガイダンスでのPR活動や奨学金制度の運用を行う。令和6年度診療報酬改定に基づく医療関係職種の賃上げに適切に対応し、職員の処遇改善を図る。
(3)	実現したい成果	経営健全化に向けた取組の推進
	取組内容	<ul style="list-style-type: none">『横手市病院事業経営強化プラン』に掲げる経営指標に係る各種数値目標の達成を目指し、部門別ヒアリングを行い経営分析データに基づく収支改善活動について共通認識を図る。専門的知識を有する外部アドバイザーを講師に迎え、経営強化に関する勉強会を複数回開催し、病院経営に関する事務局職員のスキルアップを図る。中長期的な視点による適正な病床機能と運用方針を取りまとめる。

6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- ・6/16 レジナビフェア2024東京(全国の医学生を対象とした民間主催の医学生向け合同説明会)に秋田県臨床研修協議会(秋田県病院群)として参加
- ・7/5 初期臨床研修マッチング独自説明会(秋田市)を開催
- ・当初予算に計上済みの医療機器は、未契約1件分を除き、上半期に契約手続き完了
- ・5月から9月にかけて開催された県内4看護師養成機関で開催された就職説明会に参加
- ・健全な病院経営を持続させるための病棟・病床のあり方について院内ワーキンググループを立ち上げ検討を開始
- ・6/14 外部アドバイザーを招聘し、経営・財務マネジメント強化事業(1回目)を開催
- ・8/2 外部アドバイザーを招聘し、経営・財務マネジメント強化事業(2回目)を開催

7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- ・10/11 令和6年度(第1回)秋田県臨床研修病院合同説明会(秋田大学医学部内)に参加し、当院の初期臨床研修についてPR活動を行う
- ・2月中旬 令和6年度(第2回)秋田県臨床研修病院合同説明会(秋田大学医学部内)に参加し、当院の初期臨床研修についてPR活動を行う
- ・10月～12月 中学生向け企業説明会に参加し、横手病院及び勤務する職種についてPR活動を行う
- ・秋田県人事委員会から勧告内容を市と情報共有し、職員の処遇改善を図る。
- ・外部アドバイザーを招聘し、経営・財務マネジメント強化事業(3回目、4回目)を開催する。
- ・健全な病院経営を持続させるための病棟・病床のあり方(方針)を決定する。

8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- 診療体制の整備、質の高い医療提供、患者サービスの充実
 - ・初期臨床研修医採用定員枠4名に対し、2名の採用となった
 - ・医療機器購入においては、早期発注に努め、全て年度内に納入済みとなった
- 人材の確保と働きやすい職場環境づくり
 - ・健全な病院経営を持続させるため、令和7年1月1日以降、34病床を休床し、稼働病床数195床で運営中
 - ・助産師1名、看護師4名、臨床検査技師1名、理学療法士1名の採用が決定。臨床研修医は定員枠4名に対し、3名を採用。診療放射線技師については、応募がなかった
 - ・臨床検査技師、看護師は現在も随時募集を継続
 - ・看護師の年度途中退職者数が例年より多く、職員数の減に伴い時間外勤務が増加した
 - ・今後は離職防止の観点からも、休暇を取得しやすい環境を整備する
- 経営健全化に向けた取組の推進
 - ・経営分析データを活用した各医師及びコメディカル部門へのヒアリング(情報提供及び意見交換)を実施し、収支改善に向けた共通認識を図った
 - ・外部アドバイザーを招聘し、収支改善を目的にした経営・財務マネジメント強化事業を4回開催した
 - ・物価高騰や賃上げに伴う人件費の増加等の影響から、マイナス収支の傾向が続いている。収益増加と支出削減の両面で改善に向けた各種取組が課題となっている

市立横手病院 医事課の方針書

組織名	市立横手病院 医事課
所属長名	医事課長 大友 真由子

1. 組織の使命(ありたい姿)

<ul style="list-style-type: none"> 患者さん中心に、安心・安全な医療の提供につとめます。 地域の医療・保健に貢献します。 健全な病院経営につとめます。

2. 組織の抱える課題(現状)

<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度診療報酬改定への対応.....分析・精査・シミュレーション 病床の管理.....病棟利用率75%目標、今後の病床運用の検討 医療DXへの対応.....マイナ保険証・電子処方箋その他、報酬増に係るDXの推進 強化プランに基づく経営改善への取組.....ベンチマークソフトを用いた当院の立ち位置の確認及び医師との協議 地域連携の強化.....地域の医療機関・介護施設・行政等との連携
--

3. 今年度の『スローガン』

<p>選ばれる病院を目指し、経営努力と地域連携の強化を図ります</p>

4. 今年度の方針

<ul style="list-style-type: none"> 診療報酬改定内容の理解と分析・精査・シミュレーションを行い、適切な施設基準・加算を取得する。 病床稼働率をあげるとともに、今後の病床運用の方向性決定の基となるデータの作成。 医療DXへの対応のため、院内ワーキンググループを設置し運用等を決定する。 ベンチマークソフト分析結果を用いた各医師との医業収益確保に向けた意見交換の継続 地域の医療機関・介護施設・行政等との連携強化
--

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	令和6年度報酬改定への対応による着実な収益確保
	取組内容	診療報酬改定内容の理解と分析・精査・シミュレーションを行い、当院の医療提供に見合った適切な施設基準・加算を取得する。また、ベンチマークソフト分析結果を用いた各医師との医業収益確保に向けた意見交換を継続する。
(2)	実現したい成果	病床稼働率のアップと今後の病床運用の方向性の指針となるデータ作成
	取組内容	病床稼働率75%を目標とするとともに、患者数減・医療スタッフ数減に対応した今後の病床運用の方向性決定に資する診療報酬改定内容を反映した具体的データを作成する。
(3)	実現したい成果	医療DXへの対応及び外来患者診察の流れの変更
	取組内容	マイナ保険証・電子処方箋等医療DXへの取り組みについて、患者番号制の導入、受付～会計までの流れ及び自動精算機の導入等、院内ワーキンググループを設置し、その運用・システム導入の決定を行う。

6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- ・外部アドバイザーによる経営強化事業を6月と8月に行った。
- ・ベンチマークソフト分析結果を用いた院内ワーキンググループによる病棟運用検討会を通して、経営改善への取り組みを進めた。
- ・地域医療福祉連携強化の取り組みの一環として、感染対策室および入退院支援室合同により外部施設向け研修会を行った(対面参加:15名、オンライン参加:26名)。
- ・マイナ保険証の顔認証付きカードリーダーを増設し、患者様や職員本人・家族受診の際のマイナ保険証の利用勧奨を行ったほか、院内広報にて利用方法の周知を行い利用率アップの取り組みを行った(利用率9% R6.7現在)。
- ・県南自治体6病院で、収益状況や患者取扱状況について意見交換を行い継続して協力・連携を図った。

7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- ・医業収益確保に向け医師やコメディカル部門また事務局で継続して意見交換を行いながら、多職種が危機感をもち共通認識のもと収益改善に向け職員ひとりひとりの意識改革に取り組んでいく。
- ・患者数、在院日数、病床数等の適切な施設基準・加算を取得し適正な病床規模へ改変するとともに看護師配置加算の見直しを行う。
- ・外部アドバイザーからの強化プラン支援により経営改善に向けた協議を引き続き行う。
- ・令和9年度に経常収支比率100%とする経営強化プランを軸として経営改革を進めるための課題と方向性を見極める。

8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- (1) 令和6年度報酬改定への対応による着実な収益確保
 - ・医業収益確保に向け医師やコメディカル部門また事務局で丁寧に意見交換を行い、収支改善に向け共通認識のもと取り組んでいる。
 - ・収益に対して費用をいかに抑えるかに注視し、査定額減少に向けた医師との協議や再審査請求に丁寧に取り組んでいる。さらに慣例的な支払を見直す。
 - ・次年度はコンサル契約を見直し、外部アドバイザーとの協議を増やして経営強化に取り組む。
 - ・高齢者総合評価加算(在宅医療・介護連携推進事業)取り組みの一環として、行政と連携し院内向け研修会を行った(参加:343名)。
- (2) 病床稼働率のアップと今後の病床運用の方向性の指針となるデータ作成
 - ・病棟再編を行い、医療の質を落とさないよう配慮しつつ当院の医療提供に見合う病床数とした。R7.2月の病床利用率は急性期病棟80.7%(前年65.0%) 地域包括ケア病棟86.8%(前年67.8%)。
 - ・DPC係数を考慮しながら在院日数の調整を図った結果、平均在院日数は9.7日(R6.8月)→11.5日(R7.2月)と延びている。
- (3) 医療DXへの対応及び外来患者診察の流れの変更
 - ・国・県の動向を把握しながら医療DXを導入し、外来患者診察の流れを変更する。